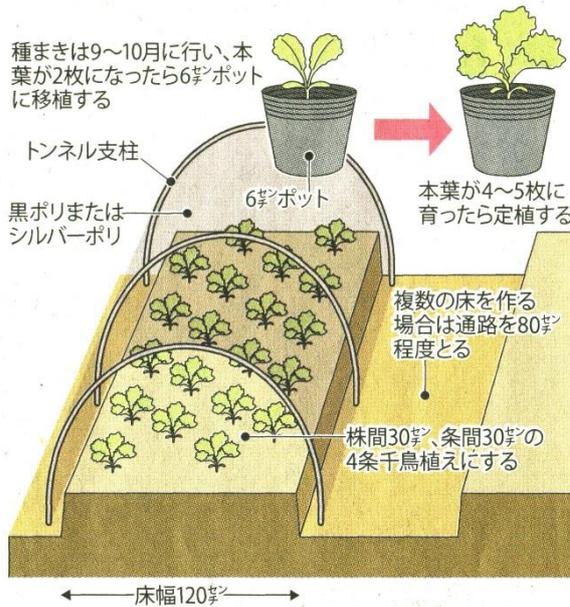


## 結球後は霜害に注意

——中島 純

レタスは生食野菜の代表でもあります。さっぱりした味は他の食材ともよく合い、サラダだけでなく、煮物など幅広い料理に利用されています。年間を通して、全国的に流通していますが、夏場は長野県などの冷涼な地域、冬場は静岡県などの温暖な地域（鹿児島県は指宿市、南九州市など）を中心に栽培されています。今回は結球レタスの秋播きトンネル栽培を紹介します。

### レタスのトンネル栽培



レタスは涼しい気候を好みます。生育適温は15～20度で、暖かい地域であれば不織布やビニールなどの被覆資材を利用すると冬場の生産が可能です。高温に弱いため、25度以上になると生育が悪くなり、病害も発生しやすくなります。水田、畑のどちらでも栽培できますが、土壌の乾燥や強い酸性は嫌います。

種播きは9～10月に行います。育苗箱に6号間隔に条播きし、薄く土をかぶせ、その後水をかけます。その上に新聞紙を乗せ、発芽したらすぐに新聞紙を取り除き、日光に十分当てて充実した苗に育てます。

混み合った部分は間引きをし、本葉2枚になったら6号ポットに移植します。その後、本葉4～5枚に育った苗を圃場に定植します。大量育苗する場合は、専用の培土とセルトレイ（200穴）を使うと省力的です。その場合は、セルトレイの1穴にコーティング種を1粒播

きし、本葉3枚程度に育てた苗を定植します。

本圃には1平方メートル当たり苦土石灰100g、堆肥2kg、化学肥料100g（窒素、リン酸、カリが15%の場合）を目安に施します。幅120cmの床を作り、黒ポリでマルチをします（早まきの場合はシルバーポリを使います）。複数の床を作る場合は通路を80cm程度とります。定植は株間30cm、条間30cm、四条千鳥植えとします。

結球期以降は霜害を受けやすくなります。霜の少ない地域では不織布をじかにかぶせる程度で栽培できますが、霜の多い地域ではトンネルが必要です。トンネルは平均気温が10度を下回るころに設置します。日中はトンネル内の温度が25度を超えないように、トンネルの裾を開けて、温度調節をします。霜害は氷点下2度以下で発生しやすいので、霜の強い地域では、トンネルの中にもう一枚不織布をかぶせましょう。

収穫の時期は品種によって異なりますが、9月播くと12月ごろ、10月に播くと1～3月になります。

（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室研究専門員）

平成26年9月11日（木）／南日本新聞